

一般社団法人 日本小児血液・がん学会

第 61 回(令和 3 年度第 3 回)理事会議事録

日 時:令和 3 年 9 月 17 日(金) 15:00~17:30

開 催:web 会議

東京都文京区大塚 5-3-13 ユニゾ小石川アーバン 4 階

出 席 者:大賀 正一(理事長)米田 光宏、滝田 順子(以上副理事長)

天野 功二、井上 健、小川 千登世、奥山 宏臣、康 勝好、塩飽 仁、高橋 義行、多賀 崇、

滝 智彦、菱木 知郎、藤 浩、渕本 康史、松本 公一、盛武 浩、井上 健(以上理事)

檜山 英三(監事)、井上 雅美(第 63 回学術集会会長)、真部 淳(第 65 回学術集会会長)

足立 壮一(JCCG 理事長)

欠 席 者:西川 亮、越永 従道(第 64 回学術集会会長)

議長:大賀理事長

冒頭に、本日の理事出席者数は 17 名中 16 名であり、定款施行細則第 8 条第 3 項に定める成立定足数を充たしているため、本理事会は成立することを確認し、以下の議案について逐次審議に入った。

I. 前回理事会議事録(案)の確認

議長より、前回議事録(案)が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

II. 審議事項

1. 入会申請者の件

庶務・財務委員会松本理事 より、資料をもとに、現在の会員数の報告とともに入会申請者 20 名、退会者 8 名が示された。入会申請者のうち 2 名は非医師であり、評議員による推薦用紙も提出され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

また、21 年度の会員資格喪失者 78 名について報告され、6 月にメールにて会費納入及び会員資格喪失について、6 月にメール通知済みであるが、事務局より書面及びメールにて再通知を行うことになった。

(なお、78 名の内、住所不明者は 1 名、メールアドレス不明者は 3 名、書面・メールの両方で連絡が取れない対象者は 3 名、7 月以降に入金が確認されたのは 10 名)

2. 社員総会の正会員・賛助会員(法人会員)の参加や情報公開について

大賀理事長より、7 月 31 日に開催された社員総会について、正会員から出席の可否を求める問い合わせがあったことが報告された。

定款 12 条の 2 項にあるように、一般会員は、社員総会での議決権を有していないが、現地開催であれば出席が可能である。ただし、本年は WEB 開催となったため、評議員、名誉会員の出席とされた。

本学会では、一般会員に向けては議事録を学会ホームページに公開しており、今後も WEB 開催では同様の対応が基本となるが、個別で質問や問い合わせが来た場合は事務局が対応することになった。併せて、今後も WEB での開催が見込まれることから、対応について検討することになった。

3. 小児がん向けの医薬品の適応拡大にあたり、薬事承認となったのちに、添付の適正使用のためのガイドライン等の参照ページの広報依頼について

保険診療委員会 小川担当理事より、日本医学会を通さず、製薬会社から直接学会宛に依頼された、薬事承認を得た医薬品の学会員への周知について報告された。

該当の医薬品は小野薬品工業株式会社/ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社の「オプジーボ®点滴静注 20mg・100mg・120mg・240mg 適正使用のお願い」であり、学会ホームページへの掲載が承認された。

4. 研修施設情報の提供について

専門医制度委員会 米田担当理事より、本学会の研究審査委員会で承認された看護委員会による研究において、専門医制度が保有する研究施設情報の提供を求められたことが報告された。

該当の研究では、研究資料の一部として、本学会の専門医制度の現状把握を目的に取得されたデータの提供を求められたが、これらは専門医制度での「目的外」使用にあたることなどを受け、研究メンバーへ、計画の一部見直しと研究審査委員会での再審査を求めることがとなった。

なお、一部情報は国立成育医療研究センターのホームページで公開されており、既に公開している情報については研究者自ら情報収集を行うことに問題は無いものとする。

5. 専門医制度委員会の試験結果について

専門医制度委員会 米田理事より、9月11日(土)実施した専門医試験について、受験者71名、内、合格者69名であったことが報告され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

(本年の試験は、COVID-19 感染症対策として面接試験は中止となり、筆記試験の実施と所属先からの推薦状提出の対応となった)

なお、詳細は下記の通りである。

筆記試験:出題問題の評価 (A 問題 53 問:総論、固形がん領域、B 問題 47 問:血液領域)

A 問題(全受験者:71 名)

平均正答率 $39.6/53 = 74.7\%$ (最高 94.3%, 最低 52.8%)

・1 問 (最低正答率 15.5%) A5「抗がん剤漏出後の処置」について試験日に、1施設のマニュアルに選択肢の正誤に齟齬がある情報が判明。成績上位者が誤答していることも考慮し、不適切問題と判断した。

B 問題(一般・暫定指導医:17 名)

平均正答率 $34/47 = 72.3\%$ (最高 89.3%, 最低 53.2%)

合否判定:筆記試験(委員会案):得点率 60%以上を合格とし、全受験者 71 名中、合格者 69 名

・一般受験者 8 名: 最低点は 1 名が A, B 100 問中 60 点(得点率 60%)→全員合格

・暫定受験者 9 名: 最低点は 1 名が A, B 100 問中 55 点(得点率 55%)→1 名不合格

・血液受験者 54 名: 最低点は 1 名が A 53 問中 31 点(得点率 58.4%)→1 名不合格

6. 小児白血病・リンパ腫診療ガイドライン、小児がん診療ガイドラインの印税、転載料収入について

診療ガイドライン委員会 多賀理事より、「成人小児進行固形がんにおける臓器横断的診療ガイドライン」の作成について、及び費用の清算方法について報告された。

本ガイドライン作成に伴う費用負担については協力 3 団体で、「JSCO(日本癌治療学会):JSMO(日本臨床腫瘍学会):JSPHO=2:2:1」の割合で負担することがすでに理事会で承認されているが、総額を日本臨床腫瘍学会が支払い、その後各学会の負担比率によって清算を行うことが報告された。また、大賀理事長より、当該ガイドライン制作に関わる本学会員が推薦され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

委員会メンバーは下記の通り

JSPHO 作成・評価委員(「臓器横断的ゲノム臨床ガイドライン」第 3 版改訂)

No.	役職	氏名	本学会での職位	所属・役職
1	作成委員 副委員長	寺島 慶太	遺伝性腫瘍委員会	国立成育医療センター脳神経腫瘍科 診療部長
2	作成委員	菱木 知郎	理事・遺伝性腫瘍委員会	千葉大学大学院医学研究院小児外科学 教授
3	作成委員	宮地 充	遺伝性腫瘍委員会	京都府立医科大学大学院医学研究科 小児科学 学内講師
4	作成委員	真田 昌	遺伝性腫瘍委員会	国立病院機構 名古屋医療センター 臨床研究センター 高度診断研究部長
1	評価委員	小野 滋	遺伝性腫瘍委員会	自治医科大学小児外科学 教授
2	評価委員	加藤 元博	遺伝性腫瘍委員会	東京大学医学系研究科 生殖・発達・加齢医学専攻 小児医学講座教授
3	評価委員	大賀 正一	理事長	九州大学大学院医学研究院成長発達医学 教授

また、小児白血病・リンパ腫診療ガイドラインおよび小児がん診療ガイドライン 2016 年版改訂について、前回のガイドライン作成(「小児血液・リンパ腫のガイドライン」「小児がん診療ガイドライン」)以降の印税・転載料の収入が 2017 年から 2020 年まで合計 120 万円程度であったことが報告され、今後の作成については、これらの収入が発生する見込みであることを加味した上で進めていくこととなった。

7. 小児期発症 血液・腫瘍疾患患者のための成人医療移行支援ガイド

長期フォローアップ・移行期医療委員会 松本副委員長より、総論「小児期発症血液・腫瘍疾患の成人への移行支援に関する基本的姿勢」が提示された。小児期発症 血液・腫瘍疾患患者のための成人医療移行支援については、学会として広く周知していくため、まずは評議員へパブリックコメントを求め、その後、学会 HP へ公開することが承認された。

8. 評議員資格更新について

評議員等資格審査委員会 井上理事より、令和 3 年度の評議員資格更新について、資格更新の対象となつた評議員 21 名の内 20 名について(1 名は更新辞退)定款施行細則第2条の条件を満たすことが認められたと報告され、異議なく承認された。

9.先天性骨髓不全及び造血不全の診断基準と重症度の学会認定について

大賀理事長より、現在作成を進めている「先天性骨髓不全症診療ガイドライン 2021」に関し、厚生労働省からFanconi貧血とDiamond-Blackfan貧血の「指定難病の局長通知(疾患別個票)の修正依頼があり、併せて 10 月中に学会承認を得ることが望ましいとの連絡を受けたことが報告された。これを受け、本件の修正内容については診療ガイドライン委員会での確認後、評議員へパブリックコメントを求め、その後、学会承認を諮ることになった。

10.日本専門医機構への対応について

大賀理事長より、日本専門医機構による「専門医」名称やその概念について、日本血液学会や腎臓学会が提出していた専門医名称の要望書が承認されたことが報告された。

今後、領域やカリキュラムなどを鑑み、本学会としての対応を、JCCGとも連携しながら検討を進めていくこととなった。

11.令和3年度 臨時社員総会の日程について

大賀理事長より、今年度臨時社員総会の開催について、昨年同様に学術集会期間にあわせて、Web 形式で学術賞の表彰および臨時社員総会を開催することが提案され、承認された。

11月25日 14:30～学会賞表彰式、15:00～16:30 臨時社員総会

※なお、評議員の資格更新に際しては、事前の「委任状」提出では、出席と認められないこととする。

報告事項

1.第63回学術集会について

第63回学術集会 井上会長より、11月25日～27日のプログラムについて進捗報告がなされた。また、応募演題は、要望演題を含め、合計で389となり、応募されたすべての演題を採用とすることとしている。また、看護学会の応募演題は65の応募数であった。なお、小児がんのこどもたちの絵画展は、オンライン開催されることになった。

2.第65回学術集会について

第65回学術集会 真部会長より、2023年9月29日～札幌開催の第65回学術集会について、開催方式については引き続き検討中であることが報告された。今後の状況にあわせての決定となるが、63回、64回の開催実績を参考に検討を進めていくことになった。

3.倫理委員会

倫理資産委員会 奥山理事より、症例報告についての倫理審査について委員会審議が行われ、新規医薬品などの症例報告などに關しても、各施設の倫理審査が必要で、そのチェックが必要だという委員会見解となったことが報告された。これを受け、来年の学術集会に間に合うように倫理審査に関する指針を作成することとされた。

4.利益相反委員会

利益相反委員会 奥山理事より、9月10日に利益相反委員会を開催し、利益相反自己申告書の確認を

行ったことが報告された。

利益相反「有」の回答は 29 名で、利益相反自己申告書の記載不備があった 4 名については、事務局より再提出を依頼することが報告された。

なお、申告書の中で、「配偶者および収入・財産を共有するもの」の部分の記載漏れが多くみられたことから今回は記載無しでも良いことにした。現在の申告書の形式では、利益相反を申告すべき該当者がいいないのか記入漏れなのかを判断できないため、今後は記入用フォームを改定して記入欄を作成することになったことが報告された。また、署名欄も小さすぎてわかりにくいため、来年から大きくするなどの改訂を行うことが報告された。

5. 第 63 回学術集会について

学術集会プログラム委員会 米田理事より、第 63 回学術集会の優秀演題について報告なされた。詳細は下記のとおりである。

<優秀演題>

末松 正也 京都府立医科大学 小児科

KMT2A 再構成陽性リンパ性白血病を対象とした Multi-Antigen Specific CART 細胞の開発

高橋 信久 福島県立医科大学 小児腫瘍内科

移植片に含まれる CD8 陽性 T 細胞数は小児 T 細胞非除去ハプロ移植の予後に強く影響する

井口 雅史 京都府立医科大学 小児外科

抗 GD2 抗体発現遺伝子を導入した間葉系幹細胞による神経芽腫新規細胞免疫療法の開発-in vitro 結果

山崎 文登 国立がん研究センター研究所臨床ゲノム解析部門

日本の Li-Fraumeni 症候群の特徴—遺伝性腫瘍学会によるレビュー研究

また、査読者コメントについて検討が必要な演題として該当する演題が 7 題であったことが報告された。いずれも倫理審査に関するコメントであり、いずれも倫理委員会承認が必要と判断し、倫理委員会承認を得ていることが確認できかった 4 題については、発表までに倫理委員会承認を得るよう学術集会事務局から筆頭演者に伝えることとした。本件については、来年の学術集会より、倫理審査委員会にて作成された指針などを演題登録時に公表することで改善することが報告された。

6. 製薬工業協会からの依頼について

保険診療委員会 小川理事より、日本製薬工業協会より小児用医薬品開発の一環として利用できるレジストリについての調査協力依頼があり、現時点では該当なしと回答したことが報告された。

7. 「がんの子どもを守る会 海外留学助成事業」のご案内

教育・研修委員会 盛武理事より、2 年に 1 度実施される「がんの子どもを守る会 海外留学助成事業」について、例年通り、学会ホームページ及びメール配信で周知協力を行ったことが報告された。

8. 日本小児看護学会への看護委員会からの調査協力について

看護委員会 塩飽理事より、看護委員会が後押しする計画への調査協力について報告された。本件は京

都大学の倫理承認を得ている計画で、「日本小児看護学会の小児がん患者家族の抗がん剤曝露についてのガイドライン作成」に関連した看護師へアンケート調査として、本学会の専門医研修施設の代表医師の先生宛に送付依頼がされる予定であることが報告された。

9. 研修施設群について

専門医制度委員会 米田理事より、来年 4 月からの施設群移行に伴う、親施設(認定研修施設)と子施設(関連研修施設)への事前調査を行い、親施設の条件が厳しい内容となっているため、親施設として申請される予定でも承認されない可能性が考えられ、親施設・子施設共に影響が考えられる状況であることが報告された。

また、来年 4 月の変更に向けて、より分かりやすく学会員へ情報提供ができるようにホームページでの掲載なども配慮していくこととなった。

なお、現在の研修施設一覧では、登録時と現在の名称と異なるものがあることが指摘され、最新の施設名に統一することなどが検討されることとなった。

10. 日本産婦人科・新生児血液学会からの HP リンク掲載依頼社会広報委員会

社会広報委員会 高橋理事より、日本産婦人科・新生児血液学会からの本学会ホームページの「関連学会」へのリンク掲載依頼があり、承認したことが報告された。

学会ホームページの「各種委員会報告」について、平成 28 年度以降更新されていないことがわかった。本件については、今後、毎年の総会開催後に最新の報告を掲載することとなった。

11. LCAS 研修会について

長期フォローアップ委員会 松本副委員長より、LCAS の第 1 回研修会が 8 月 28 日実施され、参加者は 38 名であったこと、経費は 101 万円での実施であったことが報告された。

なお、次回第 2 回は 10 月 2 日に九州主幹で実施予定、第 3 回は当初予定 12 月 18 日より 12 月 25 日に変更となったことが報告された。すでにホームページなどでは告知済みである。

12. 小児がん対策国民会議

米田副理事長より、がんの子どもを守る会が事務局として 2021 年 7 月に設立された小児がん対策国民会議について報告された。同会議は、小児がんを取り巻く環境の改善を図り、日本における国際標準の薬剤開発体制の構築促進、教育環境改善等を図り、もって患者、および社会全体の福祉へ寄与することを目的とする団体で、主に「薬剤開発促進」「切れ目のない教育支援」の取り組みが行われることとなっている。また、当学会からも米田理事が副代表に就任している他、役員が運営委員会メンバーに入るなど協力を行うことが報告された。

13. Global Gold September Campaign 後援について

大賀理事長より、NPO 法人小児がん・まごころ機構主催で 2021 年 9 月 25 日開催の「Global Gold September Campaign」へのポスターへの名義掲載(後援)について報告された。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、出席した理事長及び監事がこれに記名押印又は署名する。

令和 3 年 9 月 17 日

日本小児血液・がん学会 第 61 回理事会

理事長 大賀正一 

監事 檜山英三 